

1 テロ情勢

ISILは、昨年その機関誌において「インドネシアの日本外交使節」をテロ標的の一例として名指ししているほか、今年に入ってから、ラマダン期間中のテロを広く呼びかける声明を発出している。インドネシア国内にはISIL支持者等のイスラム過激派が存在しているほか、これまでインドネシアから数百人がISILの支配地域へ渡航し、その一部がすでに帰国していると報じられている。

現在当地において邦人や日本権益を狙った具体的なテロ脅威情報には接していないが、日頃から危機意識を持ち、外出時は周囲の状況に対する警戒を怠らないことが必要である。

2 治安情勢

(1) 北スマトラ州警察本部の発表によれば、2015年の犯罪発生件

数は約3万9,200件で、5年ぶりに4万件を下回ったものの、

メダン市及び近郊では依然としてひったくり、オートバイ盗、空き巣等の窃盗事件のほか、路上強盗、侵入強盗等の凶悪犯罪や薬物犯罪も多く発生している。これらの犯罪者は、刃物や銃などの凶器を所持しているとみられ、抵抗した被害者に危害を加えて死傷させる事件も発生するなど、治安情勢は極めて悪い状態である。外出する際は、徒歩やベチャ（三輪タクシー）の使用は避け、比較的安全な自動車での移動を心がけるなど、身の安全を最優先にした対応が必要である。

(2) 邦人の被害事案

今期、邦人被害事案の認知はない。

(3) 邦人以外の被害事案

ア 6月上旬、メダン市内のバスターミナルにおいて、旅行中のオーストラリア人男性が2人組の男に旅券、現金等の入ったカバンを強奪された。

イ 6月上旬、メダン市内の路上において、3人組の男が徒歩で帰宅中の小学生6人を自動車に乗せて誘拐したところ、犯行を目撃した付近住民らに追跡され、犯人のうち二人は逃走したが、一人が捕まり住民らから暴行を受けて死亡した。

ウ 6月中旬、メダン市内の路上で2人組の男にオートバイを奪われた男性が、犯人を追いかけて捕まえようとしたところ、刃物で頭部を刺されて死亡した。

3 自然災害

(1) シナブン山の状況

4月21日、シナブン山（北スマトラ州カロ県）が噴火し、火砕流により死傷者が発生した。また同山東側ブラスタギ周辺では、降灰が観測された。同山は、近年火山活動を活発化させ、これまでも噴火を繰り返していることから、防災当局は、警戒レベルを最高の4としており、火口から半径7キロ以内への立入りを禁止している。今後の噴火により、クアラナム国際空港の航空機離発着に影響が生じる可能性もあるので、関連情報に注意が必要である。

(2) 地震

6月2日、西スマトラ州南プシシール県沖南西79キロを震源としたマグニチュード6.5の地震が発生し、同県内では家屋損壊等により負傷者が発生した。本地震による津波の発生はなかったが、スマトラ島及び周辺海域では地震が頻発していることから、特に沿岸部では地震後の津波に対する警戒が必要である。

4 テロ・爆弾事件発生状況

関連事件は発生していない。

5 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人関連情報はない。

6 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られない。

7 日本企業の安全に関する諸問題

関連情報はない。

以 上